

ハナリ是ヲ以テ既ニ自己ノ商號ヲ以テ商業  
社會ニ信用ヲ得ル能ハサルニ至リタル者高  
事會社ノ商號ニ藉リテ商業取引ヲ為スハ禁  
セサルヘカラサルナリ

第一千五十五條

復權ヲ得ルハ協諧契約ノ調ヒタルト否トヲ  
問ハズ破産者カ元債利息及ヒ費用ノ全額ヲ債  
權者總員ニ辨償シタルト又所在ノ知レサル為  
メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償ス  
ルノ準備及ヒ資カアルトテ證明ス可シ  
復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル  
證據物ヲ添フ可シ  
然レハ協諧契約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明  
ヲ為スト無クシテ取引所ニ立入ルトテ得又高  
事會社ニ付キ協諧契約ノ調ヒタルハ無限責  
任社員若クハ取締役ハ亦其證明ヲ要セスシテ



會社ヲ繼續スルヲ得

復權スルヲ得ルハ債權者：對シ己。毫モ債  
務ヲ有セサル。至リタル者。限ルテ各國ノ  
法律。於テ皆一ナリ然レ氏此原則ヲ實用ス  
ルト。就テハ各國法律異同アリ以テ一ハ法  
式的。債務者其責ヲ免レ一ハ事實的。然レ  
モノトス債務者。シテ實。其債務者。辨償  
シタル成即チ債權者ノ要求シ得ルモノ或ハ  
其要求。代ルモノヲ實。致シタル成ハ是レ  
事實上ノ辨償ナリ宥恕時効或ハ期限ヲ後レ  
タルカ為メノ敗訴等。因テ債權者一モ受ル  
所ナキ成ハ法式的ノ辨償ナリ本案ハ佛國高

法第六而四條(ア)ラワール第六冊第五十七  
葉及ニ白國高法第五而八十六條ト等シク支  
拂相殺、代支拂(支拂)フ代リ。他ノモ、ヲ讓渡  
ス(一)等ヲ以テ事實上債權者。辨償スヘキモ  
ノト為ス協諧契約。依リ債權者一部分ヲ宥  
恕シタル場合。於テ孝國倒産法第三百十八  
條及ニ埋國倒産法第二而五十三條ハ宥恕。  
依リ一二ノ特別ナル能力ヲ復スル(少)クモ  
孝國。於テハ之ヲ常例トス。止マル一點ヨ  
リ論スレハ緒々本案ト近キ所アリ然レ氏和  
蘭高法第五而五十條。依レハ復權ハ抑モ協  
諧。依テ得ヘキモノトス今ヤ協諧ハ可否ノ



多數ヲ以テ生シ債權者ハ破産ニ於テ一層ノ  
多額ヲ得ヘキニ拘ハラズ事情ノ制スル所ト  
ナルカ故ニ之ヲ以テ眞ノ徳義上ノ免責ト爲  
スヲ得ス復權ハ債務者悉ク其義務ヲ履行シ  
高業上ノ信用ヲ害スル汚名ヲ雪キタルニ非  
サレハ之レヲ與フルヲ得ス協諧ハ唯タ破産  
手續ヲ完結シ或ハ變更スルニ過キズ商人ノ  
榮譽ヲ債務者ニ返與スルモノニ非サルナリ  
此ニ主眼トスルハ債務者ノ債權者ヨリ訴訟  
上要求セラルルノ義務アルヤ否ニ在ラズシ  
テ其商人タルノ榮譽ヲ回復スルト否トニ在  
リ其間フ所ハ債權者ト債務者トノ間ニ於ケ

ル私事ノ貨論ニ非スレテ公然タル法律上ノ  
能力ニ関スルモノナリ是レ民間ノ約定ヲ  
以テ左右シ得ヘキナリニ非サルナリ(ナリ)  
第六冊第五十九葉故ニ宥恕協解時効ニ  
出アル法式上ノ債務償却ヲ以テ足レリトセ  
ス必スヤ事實上ノ辨償アルヲ必要トスルハ  
至當ナリト視タリ是レ則チ受取證ノ差出ヲ  
以テ足レリトセス裁判所ニ於テ其正否ヲ檢  
査セサルヘカラサル所以ニシテ若シ然ラサ  
レハ債權者ノ寛宥ヲ以テ復權ニ至ルノ憂アリ  
所在分明ナラサルカ爲メニ未タ辨償シ能ハ



サレ債権者。條々規則ハ殊ニ英國創産法第  
二而四十八條。掲ク即ニ債務者ハ此ノ如キ  
債権者ニ辨償スルノ資料アルヲ證明シ且  
裁判所ノ需ニ應ジ之ヲ預ケ置クハ義務アリ  
此規則ハ權宜ヨリ生スル所ニシテ若シ然ラ  
サレハ債権者ノ所在ヲ知ル能ハサレハ為メ  
ニ復權ノ期ナキニ至ルノ恐アリ  
蓋シ債権者充分ノ支拂ヲ受ケタルモ受取證  
ヲ與ヘサルカ為メニ其辨償ノ證據ナキカ如  
キトナシトセス此場合ニ於テモ別ニ其辨償  
シタルヲ證明シ為メニ公告シタル後二月  
間ニ故障ヲ申出ワル者ナキニ於テハ復權ヲ

許可スルヲ以テ權宜ヲ得タルモノトス  
今ヤ復權ヲ論スル此ノ如ク嚴ナリト雖モ權  
宜ノ點ヨリ例外ヲ此ニ立テサルヲ得サルモ  
ノアリ前條ノ說明ニホスカ如ク取引所ニ立  
スルヲ禁スルハ殆ント全商事取引ヲ禁ス  
ルニ同シキモノニシテ協諧契約ニ依リ財產  
ノ處分權ヲ復セラレタルモノ取引所ニ立  
ルヲ得サルモハ取引ノ利益ヲ以テ早ク債  
權者ニ辨償スルノ道殆ント絶ユ故ニ該契約  
ノ待遇ヲ得タルモノハ此一點ニ就テ例外ニ  
在リ其商事會社ニ存ル規則ヲ立テタルモノ  
其理由亦々同シ



第一千五十六條

復権ノ申立アリタルキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二个月ノ期間ニ異議ヲ起サレメンカ爲メ裁判所ノ掲手場ト取引所トニ其旨ヲ掲示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ニ捜査ヲ爲サレメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ  
裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復権ノ申立ヲ許可スルト否トヲ決定ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ス  
得確定シタル決定ハ之ヲ公告ス

棄却セラレタル申立ハ一年ノ滿了前ニハ再



ヒ之ヲ為ス1ヲ得ス

復権ヲ申渡スハ初ノ法律上ノ要件完備セ  
ルヤ否ヲ調査スルノ手續アルヲ要スルモノ  
ミヒテ債務者ハ復権申立ヲ破産裁判所ニ差  
出し裁判所ハ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ公告シ  
ニケ月ノ期限ヲ定メ此期限内ニ異議ヲ申立  
ツル1ヲ得セシム檢事ノ意見ハ殊ニ第45  
十八條ニ係ル刑事ノ點ニ就テ必要トス然レ  
モ檢事ハ他ノ法律上ノ缺點ニ就テ異議ヲ申  
立ツルヲ得ヘシ殊ニ債務者ノ辨償シタル事  
實ノ搜查ヲ遂クヘシ凡ソ債權者ハ充分ノ辨  
償ヲ受ケサリシカ為メ又復権ヲ許ス可

ラサル他ノ理由アルノ故ヲ以テモ異議ヲ唱  
フルヲ得即チ債權者ヲシテ德義ノ名代タル  
ヲ得セシムルナリナリ第六冊第七  
十三葉今夫レ詐偽破産者ノ復権ニ就テ異議  
ヲ唱フルハ債權者ニ禁スヘカニサルナリ  
佛國及ニ白國ノ法律ニ依レハ上等裁判所  
限リ復権ノ判決ヲ下スヲ得ヘク下等裁判所  
ハ上等檢事ノ命ヲ受ケ必要ナル搜查ヲ遂ク  
テ國及ニ白國ノ法律ニ依レハ此判決ノ權破  
産裁判所ニアリ是レ本案ノ採用シタル所  
リ何トナレハ復権手續ハ元來破産手續ノ一  
部分ニシテ其判決ヤ事實ノ搜查ト法律ノ適



用トヲ以テスルモノナレハナリ蓋シ佛國法  
律ノ此ノ如ク法式ニ拘泥セル規則ハ佛蘭西  
語ニ於テレハビリタレラン復權ナル語ノ獨  
リ國主ニ歸スル刑事特赦ノ意義ヲ有スルヨ  
リ起リタルカ如シ然レニ此特赦權ノ施行ト  
復權トハ何レノ點ヨリ論スルモ同一ノモ  
ニ非ス殊ニ復權ニ在テハ國主ニ歸スル權利  
ノ如ク自由ニ用ユヘキモ佛國及白  
棄却セラレタル復權申立ハ佛國高法第六而  
十條及白國高法第五而九十一條ニ在テハ  
一ケ年<sup>佛國</sup>佛國<sup>及白</sup>國<sup>及白</sup>倒産法第三而十五條ニ在テハ三  
ケ年ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ許サス蓋シ

後日ハ輕率ノ復權申立ヲ防クノ用アリト雖  
此酷ニ失スルニ似タリ本筆ハ前者ヲ採ル



第一千五十七條

復權ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス  
 死者ノ復權ハ其家ノ為メニモ又死者ノ榮譽  
 ノ為メニモ之ヲ許サ、ルヲ得ス況ンヤ死者  
 ノ榮譽ハ刑法ヲ以テ保護スルニ於テヤ獨  
 逸刑法第百八十九條殊ニ緊要ナルハ高號、  
 榮譽ヲ回復スルニ在リ假令ヒ其高號既ニ他  
 人ノ手ニ移リタルモ亦タ然リ佛國高法第六  
 百十四條而國高法第五百八十六條寧國創產  
 法第三而十七條然レモ復權セサル破産者、  
 相續人ハ為メニ其身モ不能カトセラル、ニ  
 非ス(ブラワー)第六冊第百六十八葉)



第一千五十八條

復権ハ詐欺破産ノ為メニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪、輕罪ノ為メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其時間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復権ハ刑ノ満期ト為リ又ハ恩赦ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ許サス

本條ニ掲ケタル者ハ既ニ其債權者ニ辨償シタリト雖モ復権スルヲ得ス是レ其一旦表明シタル不正危險ノ意ニ對スル罰ナリ佛國

商法第六而十二條白國商法第五而九十一條  
寺國制產法第三而十六條佛國及ニ白國ノ法



律ニ於テハ詐偽破産ノ外復権ノ能力ヲ失フ  
ノ原因トナルヘキ犯罪(竊盜、詐偽、破信義等)ヲ  
特別ニ列擧ス然レモ本國法律ニ依リテ一般公  
權ノ剝奪ヲ以テ其能力ノ原因トスルヲ以  
テ至當トスルカ如ク何トナレハ此點ニ存ル  
法律ハ時アリテ變更スルイアルハク個々ノ  
犯罪ヲ列擧スルモ脱漏ヲ免レサルナラバ  
ハナリ又佛國商法ニ於テ保管者後見人或ハ  
其他ノ管理人ニシテ其計算上ノ負債ヲ辦償  
シ終ラサル者並ニ詐偽賣主ニ永々復権ヲ許  
サ、ルハ嚴ニ失スルモノニシテ是レ佛國法  
律學ニ於テモ不當トスル所ナリ(アラワー  
ル)

第六冊第百六十六葉蓋シ此ノ如キ犯者ハ恩  
赦ニ依テ刑事上ノ結果ヲ免ル、イテ得ヘシ  
ト雖モ復権ノ能力ハ為ノ得ヘカラサルナ  
リ(アラワー)第六冊第百六十七葉唯テ過怠  
破産ニ限リ其不正ノ意ナキカ故ニ恩赦ニ出  
ルモハ勿論刑期滿限後ニ於テモ復権ヲ許  
ス(帝國倒産法第三百十六條)



第十一章 支拂猶豫

第一千五十九條

高ヲ為スニ當リ自己ノ過失ナクシテ一時其支拂ヲ中止セサルヲ得サルニ至リタル者ハ高事上ノ債權者ノ過半数ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右債權者ニ對スル義務ニ付キ一年以内ノ支拂猶豫ヲ受クルヲ得

危急ニ陥ヒリタル債務者ニ通常ノ破産手續外ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルハ一個々人ニ對スル權宜ニ出テ一般ノ信用(債ノ融通)ヲ維持保護セシメ為メナリ今ヤ自己ノ罪ナク



唯夕一時支拂能カヲ失フタル商人ヲシテ事  
情ノ如何ヲ問ハス破産セシメ之ニ負擔セシ  
ムルニ破産ノ嚴酷ナル結果ヲ以テスルハ苛  
酷ニ失ス又可及的高家ヲ維持シ一時ノ不幸  
ノ為メ直ニ破滅セシメサルハ公福上ヨリ論  
シテモ利益トスルヲ疑フ容レサル所ナリ此  
規則ハ各國ノ法律多クハ掲ケル所ニテ(葉  
國千八百六十九年ノ倒産法第百二十六條和  
蘭高法第百九而條乃至第百九而二十二條自國高  
法第百九十三條乃至第百六十四條<sup>ア</sup>ラヒ  
リエシ千八百五十年ノ商法第百八而九十八條  
乃至第百九而六條等)佛國ニ於テモ千八百四十

八年八月二十二日ノ布達ヲ以テ一時此制ヲ  
設ケ奉國倒産法第百四而二十一條乃至第百  
三十三條及ニ其他獨逸各邦ニ於テモ多クハ  
此ノ如キ破産手續ノ變化ヲ施シタリ然レモ  
千八百七十七年ノ獨逸破産法ニハ之ヲ採用  
セズ同施行條例第百四條ハ以テ一般支拂猶豫  
ノ許與ヲ千八百七十七年ノ訴訟法施行條例  
第百十四條第百四項ハ以テ特別支拂猶豫ノ許與  
ヲ明ニ廢止シタリ(サルウエ<sup>イ</sup>第七百五十一  
葉第二註)蓋シ支拂猶豫ハ債權者ノ權利ヲ害  
シ特ニ自己ノ義務ニ充ツヘキ收入ノ遷延ヲ  
来シ為メ債權者ノ不利トナルヲ多ク正



直ナル債務者ヲ利スルトハ甚タ稀ニシテ却  
テ不正ナル債務者ヲシテ危険ナル詐偽ヲ施  
スノ媒介ヲ佐ルトノ説ヲ爲ス者アリ然レハ  
此理由ヤ信スルニ足ラス債務者ノ利トスル  
所ハ自己ノ財産處分權ヲ失フトナク且身上  
ニ及ホス破産ノ結果ヲ免ルニ在リ而シテ  
債權者ノ權利ヲ害スルハ眞ノ破産手續ヲ以  
テスルヨリモ尠ナルハ加之債權者ノ辨償  
ヲ受クルニ至ルハ破産手續ヲ以テスルヨリ  
却テ早キト多シ又支拂猶豫ハ多ク高號ノ七  
減ヲ救ヒ從來ノ取引先ヲ維持シ且甲者ノ乙  
者ニ與ハタルモノ他日乙者ノ甲者ニ與フル

所以トナル殊ニ日本ニ於テハ未ダ慣熟セサ  
ル歐洲破産法ノ嚴酷ナル主義ヲ毎々適用ス  
ルトテ止メ以テ商業社會ヲシテ新制ノ法制  
ニ慣レシムルニハ右ノ制最モ費用スヘシ然  
レハ支拂猶豫ノ弊ル所ハ獨リ商業取引ニ起  
因スル義務ニ止マリ租稅其他納公品ニ辱ル  
義務及非高上ノ債權ハ為メ變スルトナシ  
故ニ支拂猶豫ヲ請フ者ハ高取引外ノ債權者  
ニ別ニ辨償シ或ハ之ト和談ヲ遂ケサルヘカ  
ラス今ヤ此ノ如ク商業取引内ニ之ヲ限ルハ  
尠ニ一般高法ノ性質ヨリ然ルニ止ラス債事  
ノ梗塞ハ獨リ高業上ニ於テ生シ其罪ナキ者



ト雖モ免ル、能ハス之ヲシテ出納ノ促進ニ  
陷ヒラシムルモノニシテ其非商世界ニ在ル  
ノ人ニハ此促進ノ及ブテサナケレハナリ  
右商取引ニ於テスルヲ必要トスルノ外其支  
拂停止ノ債務者ノ罪ニ出スシテ一時ニ止マ  
リ確カニ他日回復スルノ見込アルヲ必要  
トス例ハ他人ノ破産ノ為ニ巨額ノ收入  
ヲ失ヒ或ハ旱高品ノ價頓ニ下落シ或ハ大災  
地震等ノ為ニ成ニ營業中絶シタル等是レナ  
リ今ヤ此ノ如キ場合ニ於テ被害者ニ假スニ  
時日ヲ以テセハ再ニ回復シ他日幸運ノ投機  
ヲ遂ケ又ハ高品ノ一旦下落シタルモノ再ヒ

騰貴シ又ハ速ニ家屋ヲ新築シテ閉業スルヲ  
得ヘシ然レモ是レ皆十其促進ノ債務者ノ罪  
ニ出テタルニ非サルヲ要ス故ニ詐偽又ハ過  
怠破産ノ行為其他正當ナル商人ノ缺ク可ラ  
サル注意ヲ忽ニセシニ起リタルモ然ルヲ  
得ス債務者罪アルヤ否ハ各々其時ノ事情ニ  
從テ裁判所ノ判決スル所タルヘシ又支拂猶  
豫ノ申立ハ無根ノ期望或ハ危疑ノ事情ニ基  
クテ得ス必スヤ商人ノ原則ニ從ヒ其ノ貸方  
及事實ニ依リ確カニ其回復ノ目途アルヲ計  
算シタルヲ要スルナリ  
債権者過半数ノ同意ハ協諧ニ於ケルト同一



ノ理由ヲ以テ必要トス而シテ此過半数ヲ得ル亦必ラス難キニアラス何トナレハ前ニ述ヘタル事情アルニ於テハ商人ニシテ其取引先ニ相當ノ支拂猶豫ヲ許與セサル者殆シト少ナケレハナリ又其猶豫ニ依テ失ナフ所ハ大ナルニ非ス何トナレハ協諧契約ニ於ケルカ如ク巨額ノ負債ヲ宥恕スルニアラスシテ唯々支拂期日ヲ遷延スルニ止マリ其期限至レハ元金利子及ヒ費用ヲ合セテ辨償ヲ受クヘケレハナリ其猶豫期限ハ一ケ年ヨリ多カラカレヲ以テ通常トス是レ一ニハ債權者ニ過分ノ損失ヲ蒙ラレソサラン為メ一ニハ時

日多ケレハ無常ノ時機ヲ算スルヲ確然ナラヤレハナリ(寺國千八而五十五年ノ倒産法第四而二十六條白國高法第五而九十三條第六百條)

支拂猶豫ノ原因トナルヘキ事情ハ白國高法ニ掲ケルカ如ク豫知スヘカラサル非常ノ事

變例ハハ戦争、内亂、流行病タルヲ必要トセス

蓋シ右規則ハ千八而七十年ノ役佛國政府ニ於テ一般ノ為替支拂猶豫ヲ令シタルカ如ク

全國人民ニ政府ヨリ與フル一般ノ支拂猶豫ヲ許可スルヲ就テハ其當ヲ得タリ(高法雜

誌第十六卷第六而五十六葉)ト雖モ商人ハ非



常ナルニモ豫知ス可ラサルニモアラステ  
仍ホ免ルヘカラサル所ノ不幸ニ遭遇シ其不  
幸ヲ蒙リタルヲ以テ其罪ト為スヘカラサル  
一アリ例ハハ債務者ノ破産凶荒火災死亡等  
ノ如シ幸國別產法第四而二十五條ニ於テハ  
其事情ノ認定ヲ獨リ裁判官ニ任放ス

第六十條

支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルヲ  
要ス

第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二 貸借對照表、財産目錄及住所ト債權

額トヲ明示シタル債權者名簿

第三 債權者ニ主タルモ、及ヒ從タルモノ

完全ナル辨償ヲ為シ得ルノ方法、期間及  
此カ為メ供スルヲ得ル擔保ノ證明

右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル為  
之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ  
定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルヲ



ヲ要ス債権者ハ集會ノ為メ各別ニ招集ヲ受ク  
支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルヲ  
得

本條ノ規則ハ協諧契約ノ申立ニ於ケルト同  
一ノ理由ニ出ツ(第千三十八條)殊ニ第三號ニ  
掲ケタル證明ハ最モ重要トス何トナレハ債  
権者ヲシテ支拂猶豫ノ為メニ損失ヲ蒙ルヲ  
シム可ラス若シ確實ナラサル期望ヲ以テ辨  
償セントスルカ如キハ即チ此損失アレハ  
ナリ債権者若シ書入質入又ハ保證人ヲ以テ  
保證ヲ立ツルト望ムハ其需ニ應セサル  
ヲ得ス何トナレハ債権者ハ其許諾ノ條規ヲ

立ツルヲ得レハナリ寺國倒産法第四而二十  
八條然レモ債権者ニシテ債務者ヲ充分信用  
スルハ其保證ヲ辭スルヲ得ヘシ本條ノ該  
規則ハ即チ此意ヲ以テ解スヘシ  
假リニ猶豫ノ許可ヲ與フルヲ裁判所ニ許ス  
一ハ白國商法第五百九十五條及ニ和蘭商法  
第九而五條ニ掲ク此規則ヲ設クルハ破産  
宣告ヲ免レニ為メニハ直ニ支拂猶豫ノ許可  
ヲ與ヘサルヲ得ス若シ之ヲ遲延スルハ一  
モ其効ナキカ故ニ必要ナリ而シテ假許可ハ  
後日債権者ノ承諾セサルハ無効トナル



第六十一條

集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラルタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債権者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ為ス其申立ヲ承諾スルニハ第六十六條ニ掲ケタル過半数ヲ要ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル



第一千六十二條

裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付キ  
主任判事ノ演述ヲ聽キテ決定ヲ為ス此決定ニ  
對シテハ即時抗告ヲ為ス得  
支拂猶豫ハ申立ニ因リ前數條ノ手續ニ從ヒ一  
回ニ限り之ヲ延長スル得然レモ其期間ハ  
一年ヲ超ユル得ス

（帝國倒産法第四而二十四條ニ依レハ猶豫申  
立ニ就テハ裁判所ニ於テ債務者ト債権者ト  
ノ間ニ辨論ヲナシ裁判官ハ雙方ヨリ提出シ  
タル證據ニ據テ迅速ノ手續ヲ以テ之ヲ判決  
ス白國商法第五而九十七條ニ於テモ下等裁



判所、於テ債務者債権者間ノ辨論アリト雖  
モ該裁判所ノ報告ニ基キ上等裁判所之ヲ判  
決<sup>猶</sup>不<sup>申</sup>然<sup>之</sup>ハ<sup>ハ</sup>協諧契約ノ規則ヲ再ニ<sup>モ</sup>用ユ  
ルハ簡單ニシテ且便宜ニ適スルモノ、如シ  
債務者ト債権者トノ間ノ辨論ハ法廷ニ於テ  
セシヨリ集會ニ於テスルヲ輕便トシ其債権  
者ノ議決ヲ以テスルハ此ニモ能ク其目的ニ  
稱フヘシ裁判所ノ調査ノ為メニハ會議調書  
ト主任官ノ演述トヲ以テス然レモ裁判所ハ  
其認ムル所ニ從ヒ他ニ調査ヲ遂クルモ妨ナ  
シ  
支拂猶豫ノ再猶豫ヲ與フルニ於テハ債権者

ニ充分ノ辨償ヲ為シ得ヘク債務者ヲシテ破  
産ヲ免レシムルカ如キ事情アルモハ例外ニ  
仍ホ一年ノ猶豫ヲ許ス<sup>得</sup>ヘシ(自國商法  
第六百條)然リト雖モ此延期ハ容易ニ許スヘ  
カラス到底眞ノ破産ヲ免ルヘカラサル者ト  
認ムルモハ強テ債権者ヲ尙ホ久シク待タシ  
ムヘカラサルナリ



第六十三條

債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルハ猶豫期  
間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生ズル債  
權ノ為メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルハ  
無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シ  
テハ主任判事ノ監督ヲ受ク  
債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶  
豫ノ為メニ變更スルハ無シ

猶豫期限間債務者ニ對スル差押ヲ停ルルハ  
他國ノ法律ニモ掲ケル所ニシテ(白國商法  
第六百四條和蘭商法第九百十八條)此對仍ホ  
之ニ破産ヲ宣告スヘカラサルノ結果アリ是



レ國ヨリ猶豫ノ目的トスル所、シテ千八百  
四十八年八月二十二日ノ佛國布達(財産和解  
ニ関スルモノ)ニ於テモ間接ニ言フ所ナリ其  
他協諾契約ノ時ニ於ケルカ如ク主任官ノ債  
務者ヲ監督スルト必要ナリ然リト雖モ本案  
ハ他ノ法律ト異ニシテ猶豫ノ効力ヲ獨リ商  
取引上ノ債権ニ及ホスニ止マル何トナレハ  
猶豫ノ事由ハ抑モ獨リ商業上ニ存スルモノ  
ニシテ凡ソ支拂無資力トナリタル者既ニ家  
事ニ存ル費用及ヒ租税ヲ支辨スル能ハサル  
ニ破産宣告ヲ免ル、ノ理由ナケレハナリ他  
國ノ法律ニ於テモ右ニ類スル例外ノ場合ヲ

掲クト雖モ(例ハ白國商法第六而五條和蘭  
商法第九而二十條)其商取引ニ原因セサル債  
権ニ至テハ悉ク之ヲ除去スルヲ以テ至當ト  
スルカ如シ若シ商取引外ノ債権者ヲシテ私  
談ヲ以テ長ク猶豫セシムルヲ得サルニ於テ  
ハ猶豫期限内ニ於テモ辨償ヲ為サシムルハカ  
ラス其私談調ハス又辨償セサルカ為メニ其  
財産差押ニ遇フルハ最早眞ノ財産ヲ免ル、  
トヲ得サルナリ  
保證人及ヒ連帶義務者ニ関スル規則ハ協諾  
契約ノ場合ニ準ス(白國商法第六而三條和蘭  
商法第九百二十一條)



第六十四條

支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却  
シタル時又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ  
不正ノ為メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ為  
メ之ヲ廢止シタル時又ハ債務者ニ於テ其猶豫  
契約ヲ履行セサル時又ハ其猶豫期間中債務者  
ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ為ス  
ルハ直ニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス  
此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支  
拂停止ノ日ト定ム

本條ノ規則亦協諾契約ノ場合ト照應スルモ  
ノニシテ支拂猶豫ハ可及的破産宣告及其手

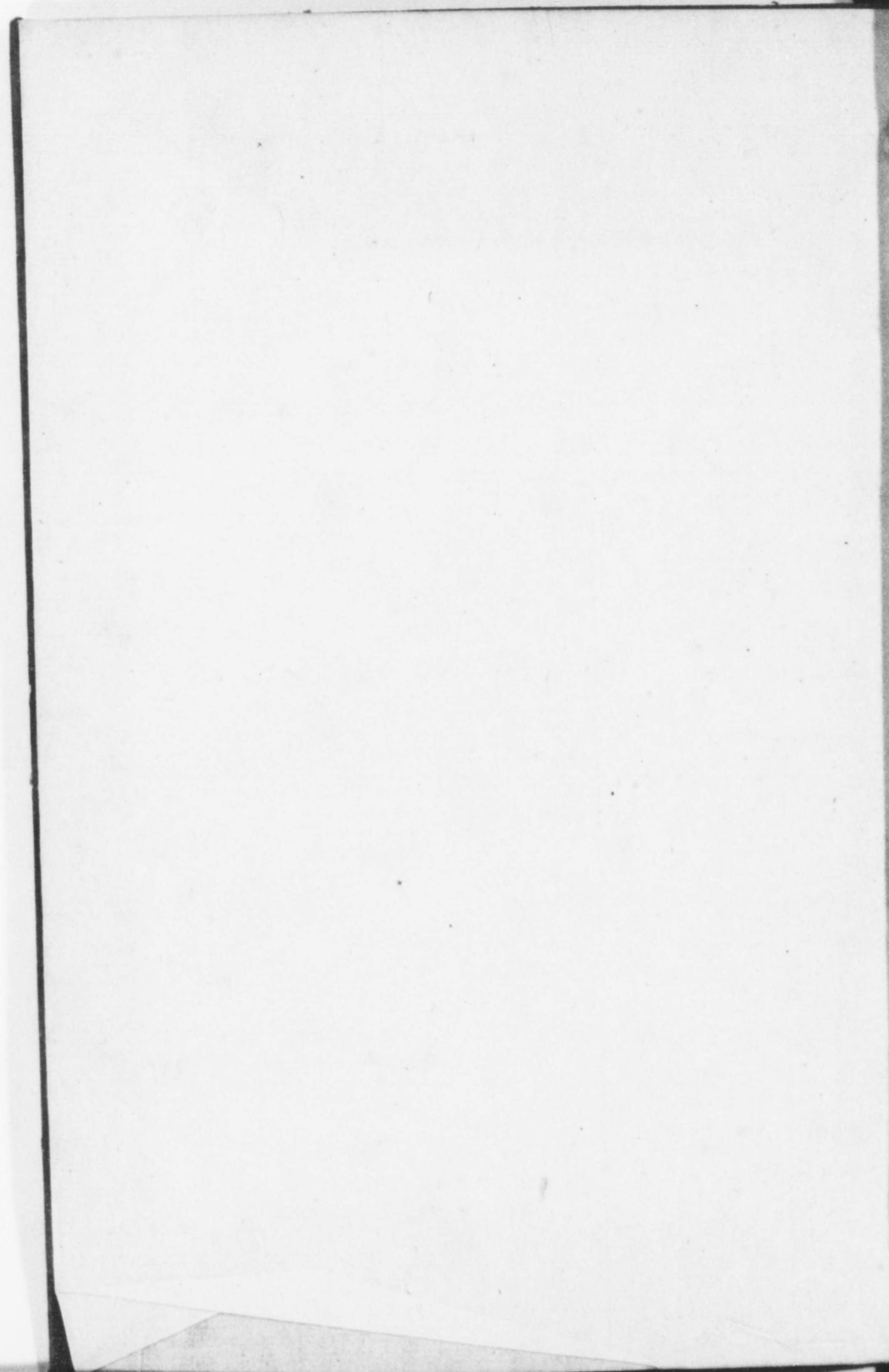


續ヲ免レシムルヲ目的トスト雖モ若シ然ル  
ヲ得サル者ハ最早破産ヲ免ルノ道ナク直  
ニ官權ヲ以テ破産ヲ宣告スルヲ得其再ヒ  
法式上ノ破産届出ヲ為スハ必要ニ非ス支拂  
猶豫ノ申立ヲ以テ之ニ充ツハク支拂停止モ  
支拂猶豫ニ関スル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘ  
シ然レニ債務者ニシテ正直ナラハ猶豫ノ承  
諾ヲ受クルノ後其義務ヲ履行スル能ハサル  
ニ於テハ之ヲ届出テ其必要ナルヲ前ノ申  
立ニ追加セサルハカラサルナリ(白國高法第  
六百七條第六而十三條和蘭高法第九而二十  
二條第九而二十三條英國千八而六十九年ノ

法律第而二十六條末文

後日債務者破産宣告ヲ受クルニ於テハ詐偽  
或ハ過急破産等ノ罰則ヲ以テ論セラル、  
アルヘキハ言ヲ族タス(白國高法第六而十一  
條)此ノ如キ有罪ノ行為ヲ為シタル債務者ハ  
初ヨリ支拂猶豫ノ許可ヲ受クルノ因由ナク  
後日發覺ノ場合ニ於テハ本條ノ規則ニ從ヒ  
必ス之ヲ奪却セラルヘシ何トナレハ自己ノ  
罪ナクシテ促進ニ至リタルニ非サレハナリ



This image shows a page from a book with a table structure. The page is divided into several vertical columns by thin lines. The columns are empty, and the paper shows signs of age and wear. The table is located on the right side of the page, and the left side is blank. The binding of the book is visible on the right edge.



